

歴博 暮らしの植物苑だより

第12回『日本の植物文化を語る』2月24日(土) 13:30～ 本館講堂

「古代植物文化史ー心と体を支える植物たちー」 辻誠一郎 (東京大学)

第96回『暮らしの植物苑観察会』3月24日(土) 13:30～ 暮らしの植物苑

「梅と桃と桜」 澤田和人 (本館研究部情報研究系)

今週のみどころ <http://www.rekihaku.ac.jp>

苑内でみられる花

ハルサザンカ・カンツバキ・ヤクシマツバキ・ヒメサザンカ・ツバキ・ヤブツバキ
シナマンサク・ベニバナマンサク、ソシンロウバイ、スイセン、フクジュソウ、
シキミ、ウメ、ダンコウバイ、ナバナなど

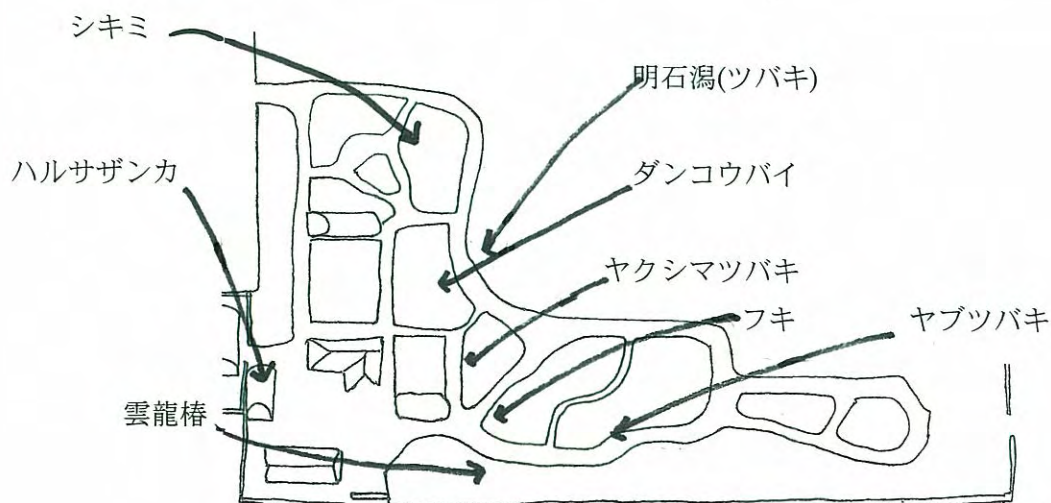
次回企画展：季節の伝統植物『伝統の桜草』

4月17日(火)から5月6日(日)

チョット珍しい果実その4

ケンポナシ (クロウメモドキ科ケンポナシ属)

落葉高木で、6月頃には淡い緑色の
集散花序をつける。甘い蜜につられて
虫たちがよく訪れる木です。花を
お酒に漬け込んだりもします。果実
はほぼ球形で革質の果皮に包まれて
います。これは甘くて食べられます。
江戸時代の伊藤若沖の野菜涅槃図に
も描かれています。



ツバキの花 大きさ比べ

ツバキが色々と咲いています。花の大きさを比べてみましょう。一番大きいのが明石潟というツバキです。横の下からヤブツバキ、ヤクシマツバキ、雲龍椿。色の淡いのが佐介系の有楽です。



ヤクシマツバキと雲龍椿の果実比べ

昨年の果実がついていました。ヤクシマツバキのところに並べて比べてみました。前回ヤクシマツバキの果実が大きいと紹介しましたが、実際に並べてみるとこんなにも違います。



フキ (キク科フキ属)

フキの花は直立した茎の先端に、筒状花だけからなる花をつけます。フキは雌雄異株で、一般的に遠目で黄色ぼくみえるのが雄株で、白っぽく見えるのが雌株です。雄株は花が終わると枯れていきます。もう少し花が開き気味になると分かりいいと思います。



ダンコウバイ (クスノキ科クロモジ属)

壇香梅・鬱金花ともいわれ、ロウバイやマンサクのように、葉が出る前に黄色い花が咲きます。雌雄別株で苑内のものは雌株です。雌花にはめしべ1本、退化おしべが9本あります。小さい花ですがめしべが目立ちます。



シキミ (モクレン科シキミ属)

常緑の小高木で、樹皮や葉から線香や抹香を作ります。寺院や墓地によく植えられています。花色が薄紅色のものをウスベニシキミといいます。苑内には、シキミの園芸品種と西洋シキミがあります。中国料理につかう八角はトウシキミです。

